ました。そんな過労がたまってきて、とうとう肺結核になってしまいました。

まわりの人々は心配しました。ようやく始められたばかりの幼稚園と女学校にとって、まだいろいろな問題が残っていて、そのために、リンはたいせつな人であったのです。早くよくなってもらわなければならない人であったのです。

しかし、病気ではしかたありません。早くよくなりたいと、リンは京都から徳島や、岡山の方まで、気候のよい所を求めて、病気をなおすための旅をしました。病気はだんだん悪くなるばかりでした。

そんな重苦しい病気の床に、リンにとってたいへんうれしいことがありました。

「四十年間も、よく父母につかえ、ただの一度も不満そうな顔をしたこともなく、いつもやさしく、よくいたわって、父母を大事にしてくれた。私にはキリスト教のことはよくわからないけれども、君のこうしたやさしさは、やは